

五中・夢バトン

豊中市立第五中学校
学校だより
平成 29 年(2017 年)
11 月 21 日
発行責任: 校長 石井武

平成 29 年度 (2017 年度)

「全国学力・学習状況調査」結果概要



今年 4 月に 3 年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査における、本校の結果分析と課題等についてお知らせします。

五中生の主な課題としては・・・

国語では、表現の仕方をとらえて自分の考えを書くこと、数学では、数学的な表現を用いて説明すること、学習面では、宿題や予習・復習などの家庭学習の習慣、生活面では、夢や目標に向かって挑戦する気持ちや自尊感情、規則や約束を守ろうとする規範意識の低さなどがあげられます。

<学校として今後に向けて・・・>

●学校生活、学習活動、学校行事等全体の取り組みを通して、生徒の自尊感情を豊かに育み、お互いを高め合い支え合える人間関係づくりや学級・学年集団づくりの取り組みの充実に努めます。

●学力向上に向けては、思考力・表現力を高めていくためにコミュニケーション活動を一層充実させ、生徒が主体的に参加し、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養う授業づくりを進めていきます。

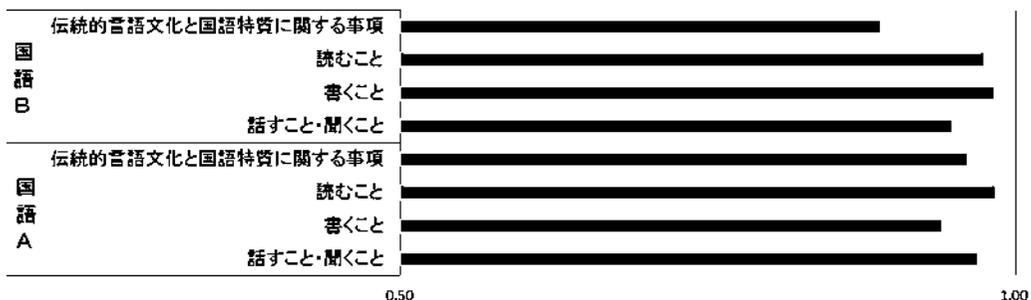
学校と家庭・地域が子どもたちの学力や学習状況に関する課題を共有し、さらに連携した取り組みを進めていく必要があると考えております。今後も引き続き、本校教育の推進に向け、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【1】教科に関わる結果概要

<国語>



領域別平均正答率(国語)の全国比



0.50

1.00

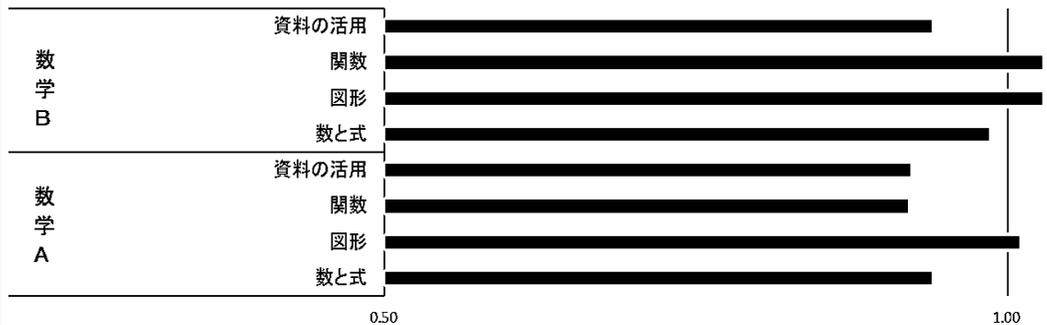
○国語A（主として知識）の領域別平均正答率のうち「文章の表現の仕方について自分の考えをもつ」など「読むこと」や「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」など「話すこと・聞くこと」の項目は、比較的良好であるが、「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」など「書くこと」や「文脈に即して漢字を正しく書く」など「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られる。

○国語B（主として活用）の領域別平均正答率のうち「目的に応じて必要な情報を読み取る」など「読むこと」や「集めた材料を整理して文章を構成する」など「書くこと」の項目は、比較的良好であるが、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」など「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られる。

<数学>



領域別平均正答率(数学)の全国比



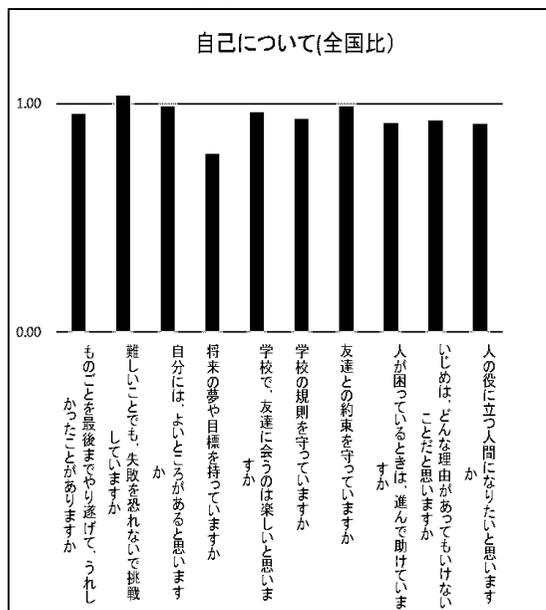
○数学の全国平均正答率に比較した場合、数学B（主として活用）に比べ数学A（主として知識）に課題が見られる。

○数学Aの領域別平均正答率のうち「円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している」など「図形」の項目は、全国に比して良好であるが、「与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している」などの「関数」の項目に課題がみられる。また、数学Bの領域別平均正答率のうち「付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる」など「図形」の項目や「与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める」などの「関数」の項目に関しては、全国に比して良好であるが、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」など「資料の活用」に課題が見られる。

【2】 生徒質問紙調査から見られる特色

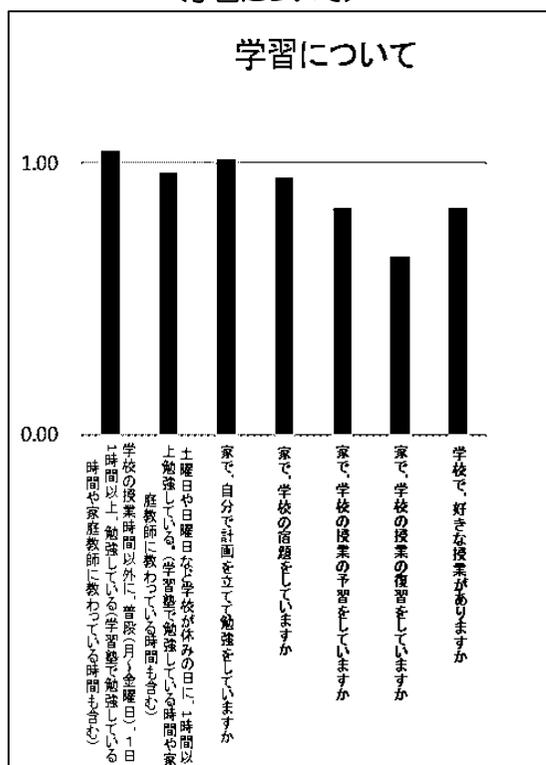
下のグラフは生徒質問紙調査の項目について、肯定的意見（あてはまる・どちらかといえばあてはまるの合計）を全国と比較したもののうち、特徴的なものをまとめたものです。

<自己について>



- 自己に関わる多くの項目で、全国と比較した場合その肯定的割合は下回っている。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」という項目は全国に比して多い。しかし、「将来の夢や目標をもっているか」という項目については全国に比して少ない。目標や夢が定められてくるとそれに向けて挑戦するであろうことが期待される。
- 「規則や約束を守っているか」という項目については全国に比して低く、規範意識に課題が感じられる。

<学習について>



- 学習時間について、普段の日の学習時間が1時間を越えている割合が全国に比して多いが、逆に土日等休日の学習時間が1時間以上の割合は全国を下回っている。
- 家庭学習のうち、「自分で計画を立てて勉強している」割合は全国に比べ良好な状況である。
- 家庭学習のうち、「宿題をする」「予習・復習をする」など学んだことを繰り返し学習する取り組みが、全国に比べてできていない状況が伺える。

